



サーバ関連プールの設定

この章の内容は、次のとおりです。

- [サーバプールの設定, 1 ページ](#)
- [UUID 接尾辞プール設定, 3 ページ](#)
- [IP プール設定, 5 ページ](#)

サーバプールの設定

サーバプール

サーバプールは複数のサーバで構成されています。これらのサーバは通常、同じ特性を持っています。これらの特性は、シャーシ内の位置であったり、サーバタイプ、メモリ容量、ローカルストレージ、CPU のタイプ、ローカル ドライブ設定などの属性だったりします。サーバを手動でサーバプールに割り当てることも、サーバプール ポリシーとサーバプール ポリシー資格情報を使用して割り当てを自動化することもできます。

システムが組織を通じて、マルチテナント機能を実装している場合、特定の組織で使用されるサーバプールを1つ以上、指定できます。たとえば、CPU を2個搭載したサーバをすべて含むプールをマーケティング組織に割り当て、メモリのサイズが64GBのサーバをすべて、財務組織に割り当てることができます。

サーバプールには、システム内のどのシャーシにあるサーバでも入れることができます。1つのサーバは複数のサーバプールに属することができます。

サーバプールの作成

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # create server-pool <i>server-pool-name</i>	指定した名前のサーバプールを作成し、組織サーバプールモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/server-pool # create server <i>chassis-num/slot-num</i>	サーバプールのサーバを作成します。 (注) サーバプールには複数のサーバを含めることができます。プールに複数のサーバを作成するには、組織サーバプールモードで複数の create server コマンドを入力する必要があります。
ステップ 4	UCS-A /org/server-pool # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例に、ServPool2 という名前のサーバプールを作成し、そのサーバプール用に 2 つのサーバを作成して、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # create server-pool ServPool2
UCS-A /org/server-pool* # create server 1/1
UCS-A /org/server-pool* # create server 1/4
UCS-A /org/server-pool* # commit-buffer
UCS-A /org/server-pool #
```

サーバプールの削除

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # delete server-pool <i>server-pool-name</i>	指定されたサーバプールを削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、ServPool2 という名前のサーバプールを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # delete server-pool ServPool2
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```

UUID 接尾辞プール設定

UUID サフィックス プール

UUID サフィックス プールは、サーバへの割り当てに使用できる SMBIOS UUID の集まりです。UUID の接頭辞を構成する先頭の桁の数字は固定されています。残りの桁で構成される UUID 接尾辞は変数です。サービスプロファイルで特定の UUID サフィックス プールを使用すると、そのプロファイルに関連付けられているサーバの変数値が一意的なものになり、競合を避けることができます。

サービスプロファイルで UUID サフィックス プールを使用する場合は、サービスプロファイルに関連付けられているサーバの UUID を手動で設定する必要はありません。

UUID サフィックス プールの作成

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の設定モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/ を <i>org-name</i> として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # create uuid-suffix-pool pool-name	指定されたプール名で UUID 接尾辞プールを作成し、組織の UUID 接尾辞プール モードを開始します。 この名前には、1 ～ 32 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後で、この名前を変更することはできません。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org/uuid-suffix-pool # set descr <i>description</i>	(任意) UUID サフィックス プールの説明を記入します。 (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合は、説明を引用符で括弧する必要があります。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS-A /org/uuid-suffix-pool # set assignmentorder { <i>default</i> <i>sequential</i> }	次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • default : Cisco UCS Manager はプールからランダムな ID を選択します。 • sequential : Cisco UCS Manager はプールから最も小さい使用可能 ID を選択します。
ステップ 5	UCS-A /org/uuid-suffix-pool # create block <i>first-uuid last-uuid</i>	UUID サフィックス ブロック (範囲) を作成し、組織 UUID サフィックス プール ブロック モードを開始します。 <i>nnnn-nnnnnnnnnnnnn</i> 形式を使用してブロック内の最初と最後の UUID サフィックスを指定する必要があります。UUID サフィックス間はスペースで区切ります。 (注) UUID サフィックス プールには、複数の UUID サフィックス ブロックを含めることができません。複数のブロックを作成するには、組織 UUID 接尾辞プール モードから複数の create block コマンドを入力する必要があります。
ステップ 6	UCS-A /org/uuid-suffix-pool/block # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、pool4 という名前の UUID サフィックス プールを作成し、プールの説明を記入し、プールに使用される UUID サフィックス ブロックを指定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # create uuid-suffix-pool pool4
UCS-A /org/uuid-suffix-pool* # set descr "This is UUID suffix pool 4"
UCS-A /org/uuid-suffix-pool* # create block 1000-000000000001 1000-000000000010
UCS-A /org/uuid-suffix-pool/block* # commit-buffer
UCS-A /org/uuid-suffix-pool/block #
```

次の作業

UUID サフィックス プールをサービス プロファイルとテンプレートのうち一方、または両方に含めます。

UUID 接尾辞プールの削除

プールを削除した場合、Cisco UCS Manager は、でプールの vNIC または vHBA に割り当てられたアドレスを再割り当てしません。削除されたプールのすべての割り当て済みブロックは、次のいずれかが起きるまで、割り当てられた vNIC または vHBA に残ります。

- 関連付けられたサービス プロファイルが削除された場合。
- アドレスが割り当てられた vNIC または vHBA が削除された場合。
- vNIC または vHBA が異なるプールに割り当てられた場合。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の設定モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/ を <i>org-name</i> として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # delete uuid-suffix-pool pool-name	指定された UUID サフィックス プールを削除します。
ステップ 3	UCS-A /org # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、pool4 という名前の UUID サフィックス プールを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # delete uuid-suffix-pool pool4
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```

IP プール設定

IP プール

IP プールは、用途が初期設定されていない IP アドレスの集合です。Cisco UCS Manager で IPv4 または IPv6 アドレス プールを作成して以下を行うことができます。

- サービス プロファイルが関連付けられているサーバのデフォルトの管理 IP プール ext-mgmt の置き換え。Cisco UCS Manager は、サーバ上の Cisco Integrated Management Controller (CIMC) で終端する外部アクセス用に、IP プールの各 IP アドレス ブロックを予約します。サービス

プロファイルが関連付けられていない場合は、CIMC 用の ext-mgmt IP プールを使用して IP アドレスを取得する必要があります。

- CIMC 用の管理インバンドまたはアウトオブバンド IP アドレスの置き換え。



(注) Cisco UCS Manager では iSCSI ブート IPv6 プールを作成できません。

Cisco UCS Manager で IPv4 アドレス プールを作成して以下を行うことができます。

- デフォルトの iSCSI ブート IP プール `iscsi-initiator-pool` の置き換え。Cisco UCS Manager は、指定された IP プールの各 IP アドレス ブロックを予約します。
- 管理 IP アドレスと iSCSI ブート IP アドレス両方の置き換え。



(注) サーバまたはサービス プロファイルのスタティック IP アドレスとして割り当てられていた IP アドレスが、IP プールに含まれてはなりません。

インバンド IP プールの作成

IPv4 および IPv6 アドレスのブロックを持つインバンド IP プールを設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の設定モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/を <i>org-name</i> として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # create ip-pool pool-name	指定された名前で作成し、組織 IP プールモードを開始します。 この名前には、1～32文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後で、この名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCS-A /org/ip-pool # set descr description	(任意) IP プールの説明を記入します。

	コマンドまたはアクション	目的
		(注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合は、説明を引用符で括弧する必要があります。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS-A /org/ip-pool # create block <i>first-ip-addr last-ip-addr gateway-ip-addr subnet-mask</i>	IP アドレスブロック (範囲) を作成し、組織 IP プールブロック モードを開始します。アドレス範囲の最初と最後の IP アドレス、ゲートウェイ IP アドレス、およびサブネットマスクを指定する必要があります。
ステップ 5	UCS-A /org/ip-pool/block # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。
ステップ 6	UCS-A /org/ip-pool/block # exit	組織 IP プールブロック モードを終了します。
ステップ 7	UCS-A /org/ip-pool # create ipv6block <i>first-ip6-addr last-ip6-addr gateway-ip6-addr prefix</i>	IPv6 アドレスブロックを作成し、組織 IPv6 プールブロック モードを開始します。アドレス範囲の最初と最後の IPv6 アドレス、ゲートウェイ IPv6 アドレス、およびネットワーク プレフィックスを指定する必要があります。
ステップ 8	UCS-A /org/ip-pool/ipv6-block # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例では、inband-default という名前のインバンド IP プールを作成し、IPv4 アドレスのブロックを作成し、IPv6 アドレスのブロックを作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create ip-pool inband default
UCS-A /org/ip-pool* # create block 192.168.100.10 192.168.100.100 192.168.100.1 255.255.255.0
UCS-A /org/ip-pool/block* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool/block # exit
UCS-A /org/ip-pool # create ipv6-block 2001:888::10 2001:888::100 2001:888::1 64
UCS-A /org/ip-pool/ipv6-block* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool/ipv6-block #
```

次の作業

IP プールをサービス プロファイルとテンプレートに含めます。

IP プールへのブロックの追加

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の設定モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/ を org-name として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope ip-pool pool-name	指定したプールの組織 IP プール モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/ip-pool # create block first-ip-addr last-ip-addr gateway-ip-addr subnet-mask	IP アドレスブロック (範囲) を作成し、組織 IP プールブロック モードを開始します。アドレス範囲の最初と最後の IP アドレス、ゲートウェイ IP アドレス、およびサブネットマスクを指定する必要があります。 (注) IP プールには、複数の IP ブロックを含めることができます。複数のブロックを作成するには、組織 IP プール モードから複数の create block コマンドを入力します。
ステップ 4	UCS-A /org/ip-pool/block # commit-buffer	トランザクションをコミットします。
ステップ 5	UCS-A /org/ip-pool/block # exit	IPv4 ブロック コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 6	UCS-A /org/ip-pool # create ipv6-block first-ip6-addr last-ip6-addr gateway-ip6-addr prefix	IPv6 アドレスのブロック (範囲) を作成し、組織 IP プール IPv6 ブロック モードを開始します。アドレス範囲の最初と最後の IPv6 アドレス、ゲートウェイ IPv6 アドレス、およびネットワーク プレフィックスを指定する必要があります。 (注) IP プールには、複数の IPv6 ブロックを含めることができます。複数の IPv6 ブロックを作成するには、組織 IP プール モードから複数の create ipv6-block コマンドを入力します。
ステップ 7	UCS-A /org/ip-pool/ ipv6-block # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次の例では、IPv4 および IPv6 アドレスのブロックを **pool4** という名前の IP プールに追加し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope ip-pool pool4
```



```
UCS-A /org/ip-pool # create block 192.168.100.1 192.168.100.200 192.168.100.10 255.255.255.0
UCS-A /org/ip-pool/block* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool/block #exit
UCS-A /org/ip-pool* # create ipv6-block 2001:888::10 2001:888::100 2001:888::1 64
UCS-A /org/ip-pool/ipv6-block* commit-buffer
```

IP プールからのブロックの削除

プールからアドレスブロックを削除した場合、Cisco UCS Manager では、そのブロック内から vNIC または vHBA に割り当てられていたアドレスは再割り当てされません。削除されたブロックのすべての割り当て済みブロックは、次のいずれかが起きるまで、割り当てられた vNIC または vHBA に残ります。

- 関連付けられたサービス プロファイルが削除された場合。
- アドレスが割り当てられた vNIC または vHBA が削除された場合。
- vNIC または vHBA が異なるプールに割り当てられた場合。



(注) IPv6 アドレス ブロックは、vNIC または vHBA には適用できません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の設定モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/ を <i>org-name</i> として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope ip-pool pool-name	指定したプールの組織 IP プールモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/ip-pool # delete { <i>ip-block ipv6-block</i> } { <i>first-ip-addr first-ip6-addr</i> } { <i>last-ip-addr last-ip6-addr</i> }	IPv4 または IPv6 アドレスの指定されたブロック (範囲) を削除します。
ステップ 4	UCS-A /org/ip-pool # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

この例では、pool4 という名前の IP プールから IP アドレス ブロックを削除し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope ip-pool pool4
UCS-A /org/ip-pool # delete block 192.168.100.1 192.168.100.200
UCS-A /org/ip-pool* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool #
```

この例では、`pool4` という名前の IP プールから IPv6 アドレスブロックを削除し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope ip-pool pool4
UCS-A /org/ip-pool # delete ipv6-block 2001::1 2001::10
UCS-A /org/ip-pool* # commit-buffer
UCS-A /org/ip-pool #
```

IP プールの削除

プールを削除した場合、Cisco UCS Manager は、でプールの vNIC または vHBA に割り当てられたアドレスを再割り当てしません。削除されたプールのすべての割り当て済みブロックは、次のいずれかが起きるまで、割り当てられた vNIC または vHBA に残ります。

- 関連付けられたサービス プロファイルが削除された場合。
- アドレスが割り当てられた vNIC または vHBA が削除された場合。
- vNIC または vHBA が異なるプールに割り当てられた場合。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の設定モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、/ を <i>org-name</i> として入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # delete ip-pool <i>pool-name</i>	指定された IP プールを削除します。
ステップ 3	UCS-A /org # commit-buffer	トランザクションをシステム設定にコミットします。

次に、`pool4` という名前の IP プールを削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # delete ip-pool pool4
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```